

平成 25 年度第 12 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 26 年 3 月 28 日（金） 18：30 ～ 19：50

【場 所】 厚田保健センター 1 階 多目的ホール

【出席者】 13 名（15 人中）

役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
会長	佐藤 勝彦	○	委員	小山 玲子	○	委員	前田 和也	
副会長	渡邊 教円	○	委員	今 光江		委員	美馬 康子	○
委員	大黒 利勝	○	委員	柴田 志寿子	○	委員	盛重 栄司	○
委員	小笠原 英史	○	委員	柴田 肇	○	委員	築田 敏彦	○
委員	河野 すみれ	○	委員	高橋 敬二	○	委員	吉田 美香	○

※正副会長を除き、あいうえお順

活動団体 ～ 厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」、あつたの森支援の会「やまどり」 吉田 一男
NPO法人 あつたライフサポートの会 清水 克史
厚田資料室サポートの会 山口 朝也、厚田アクアレーン実行委員会 高田 恭宏
あつたこだわり隊 河合 徳秋、小山 典子

支 所 ～ 尾山支所長・熊谷課長 事務局 ～ 高田課長・栗谷主査・渡部主任・永澤主任
(地域振興課)

【傍聴者】 2名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 情報交流（リラックス タイム）

・地域の「ちょっといい話題」交流

4. 報告事項

・平成 25 年度区内各種団体の活動報告について（資料 1・2）
・地域おこし協力隊員の決定について（資料 3）

5. 協議事項

・住民主体による新たな地域づくり（資料 4）
～地域、住民を巻き込むための新たな手段、方法を探る～

6. その他

・次回会議の日程について

7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。地域協議会に入る前に、今委員、前田委員の2名から欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成25年度第12回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： 皆さんお晩でございます。年度末という事で皆さんお忙しいと思われ、農家の方々もこれから忙しい時期に入っていくと思います。私達がどのような生活をしていようと季節は春へと向かいます。4月になると新しい年度を迎え気持ちもリフレッシュすると思います。本日の地域協議会は年度末という事で、各種団体の方にも集まっていたいただき、この一年間の活動報告を地域協議会委員の皆さんでお聞きし、地域が皆さん方のお陰で少しでも元気になり活発に地域が活動しているという事を再確認するという意味もでございます。そういう事で、今日はお忙しいところ団体の皆さんにもお集まりいただき、地域を元気にする知恵を出し合いながら第12回の地域協議会を進めていきたいと思っております。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

- ・平成25年度区内各種団体の活動報告について（資料1・2に基づき七つの団体代表者により口頭説明）
- ・地域おこし協力隊員の決定について（資料3に基づき厚田支所地域振興課高田課長から口頭説明）

5. 協議事項

住民主体による新たな地域づくり（資料4）

～地域、住民を巻き込むための新たな手段、方法を探る～

佐藤会長： 「住民主体による新たな地域づくり」～地域、住民を巻き込むための新たな手段、手法を探る～という事で前回、海士町の紹介を私の方でさせていただいた訳ですが、やはり住民主体によって地域というのは元気になっていくのだという事例をご紹介しました。今日は出来るだけ多くの住民の方々にこの地域づくりに参画していただき、地域に住む人々が元気に暮らしていける仕掛けと言いますか、方法という事でどういう風にこれから展開したらいいかという事ではなくて、将来的に一人でも多くの住民がこの地域づくりに参画するというような地域文化を作っていくという意味で、是非、皆さん達の知恵を少しお借りして、この地域を巻き込むためにどうしたらいいかという事を少し議論していただきたいという風に思います。この議論も当然一回で終わるとは思っておりませんので、何回か続けて参りますけれども、今日は、その皆さん方にご意見をいただくという事で第1弾となります。自分達の地域の人を巻き込むには、こういう方法が良いのではないかという仕掛けをこれから徐々に作っていきれた良いのではないかというご意見をいただければと思います。それから今日、各団体から参加していただいた方にも是非、ご意見があればいただきたいと思っておりますので委員の皆さんよろしくお願い致します。

一つヒントというとおかしいかも知れませんが、今、地域協議会で提案されて複合施設の基本構想が作られようとしております。その複合施設が具体的にどういう事かという事はまだ地域協議会へ報告しておりませんが、そういうところを一つ核として地域の

人達が参加出来るような仕掛けをその中に作るというのも一つの方法ではないかという風に思っており、その複合施設の方では是非やってみたいという方が参加出来るような住民参加型の仕組みを作っていこうというような基本的な考えもありまして、これも一つだろうと思います。その他、地域の人を誘いながらどうやっていったら良いかという事だと思います。もう一つの提案となりますが、色々なイベントがあると思いますが、吉田委員からも報告がありましたように「ゆめ倶楽部」では年間を通して色々と活動しているのですが、そういう活動に地域の人が一人でも多く参加出来るような方法、地域の人と何かを一緒にする事によって面白いとか、楽しいというささやかな感動が地域づくりへの参加への動機づけにもなると思います。各種イベントに参加する時、どういう風にお誘いするかという事で、先ほどライフサポートのお話しがりましたが、ライフサポートで少し考えているのがこういうイベントに地域で足の無いお年寄りに参加していただく為の計画を今、少し立てようとしておりますが、それも一つの方法ではないかなと思います。そういう風に地域の人達に出来るだけ地域の行事に参加してもらうというのも一つの方法ですし、これだけ色んな団体があり全て地域づくりの団体なので、そういう団体への参加もやはりこの方法のうちの一つかなと思っております。

大黒委員： 人づくりや物づくりそれから例えば、健康づくりだとかと解りやすく言っておりますが、うちも七つくらいの団体に分かれておりますが、連携を持たなければ駄目だと思います。いつ行っても同じ人ばかりの集まりで、先ほど話しがあったように車を出して参加していただくというアイデアも凄いいと思います。

佐藤会長： 各種団体の繋がりですよ。例えば、いきいきハビリだとか健康に関して何かをやっていたらそういう人達をこの団体のイベントだとか行事に繋いでいく形もありますね。

大黒委員： 私も老人クラブに所属しているのですが、保健師の人達が来て“食”について塩分の多い食べ物は駄目だとかという話しを何回も聞いたりしておりますが、いざ実践となるとなかなか継続する事も出来ない訳で、団結があればやれるのではないかという風に思います。

佐藤会長： 解っていても出来ないんですよ。高齢になってくると歩く事が大切だという事になっても、三日坊主であったりするんですよ。

ゆめ) 吉田： 私が在職中にあったら良いなと思ったのは、地域のイベント会社と言いますか、そういうものの立ち上げがあれば良いなと思います。ゆめ倶楽部やこだわり隊とかでイベントを実施している訳ですが、それぞれに縄張りみたいなものがある感じがしながら実施しているような気がするので、区のボランティアによるイベント会社があれば年間を通してイベントを計画したり、結婚していない人達を対象として婚活イベントだとかを新篠津村とかでは実施しており、厚田区内にもまだ結婚していない人もいますのでそういうイベントを組んで実施するような発想で取り組んでいくような事も必要なのではないかと思います。ゆめ倶楽部としてもイベントは組んでおりますが、例えば、飲食を楽しむようなものは違う団体へお任せしたり、「スポーツと食の体験」の場合は、食の他にもスポーツも絡むのでまた異なると思いますが、こだわり隊もたくさん活動がありますので、イベントを専門に考えて取り組んでいくようなものがあっても面白いかなという風に思っております。

佐藤会長： イベントコーディネーターみたいな年間を通して人を結び付けていくような事を上手にやっていく人は良いと思います。

渡邊副会長： 厚田区は、厚田、発足、古潭、望来、聚富と縦に長く分散しているので、ここだけで盛り上がりたとしてもどうしようもないので、その辺をどう繋げていくかという問題。地域の協力を得ながらという事で、例えば、大黒委員の聚富地区の老人クラブをどう活用し、どう繋げていくかというところのコーディネートはどうするかが問題。

佐藤会長： 今まで、厚田地区、望来地区、聚富地区というのは独立している気がするのですが、今の渡邊副会長ご意見のようにそれを繋げていくような新たな取り組みを行わないとなかなか上手くいかないと思います。今まで通りだと同じ行事を同じように実施するという風になると思います。

渡邊副会長： 望来もコミュニティセンターみなくなるが出来た事により、あきあじ祭りもそうですが厚田から大分、人が行くようになったと思います。昔から見ると人の動きが良くなったと思いますので、更にもうひと工夫という事で、先ほどのお話にも出ました送迎の部分とか高齢者の方が多いので、出来るだけその家族も集める工夫ですとかが必要だと思えます。

佐藤会長： 吉田さん、大黒委員、渡邊副会長の意見が繋がったと思います。誰かがイベントのコーディネートを実施し年間の人を動かす。行事や何かの計画をするだけでいっぱいであり、それをどう地域と結び付けていくか、または他の団体と結び付けていって人の動きをもっと活発に出来るかというのが今年の課題だと思います。

渡邊副会長： 4月から来る地域おこし協力隊はどうなのでしょう。

佐藤会長： 恐らくはそういうものにも興味を持っていると思いますが、詳しくは4月に入ってから皆さんがご質問していただければと思います。

佐藤会長： 隊員は、厚田区の地域協議会の議事録も見てくれていたようでしっかり勉強してくれているようです。

当然、この議論は一回だけでは尽きないと思いますし、地域を巻き込むという事は結果的に地域を元気にする結論だと思います。良い方法や良いやり方がなかなか皆さんで出来ないものですから全国各地で困っているんです。一部の人達だけが一生懸命やって地域が俺は知らないというような事がほとんどなものですから、本当、一握りの地域だけが成功しているのはそこなんです。この厚田区を元気にするために、地域を巻き込むという頂上が見えているんです。今日は七つの団体に活動報告をしていただきましたが、厚田が元気なる八合目辺りまでは行っているのと思いますので、頂上は見えています。ですから今、ご意見のありましたとおりそれをどうコーディネートし結び付けていき、多くの人達をそれに巻き込んでいくかという事です。

柴田(肇)委員： 結局、私も地域協議会メンバーとして色々参画させていただいた訳ですが、ここに参加されている方はみんな何とかしようという意欲に燃えて一生懸命やっているんですが、いわゆる自治体の町内会レベルとか、こういう連合町内会レベルとかという風になりますと、

厚田をどうしようかという事に対しての温度差がもの凄くあって一生懸命やっている人は一生懸命やっているんですけども、意識の無い人は諦めムードで時間を流れのままにいくという事で何の疑問も持たない方もたくさんいらっしゃるのが現実だと思います。町内会なり、それ以外の各種団体の方にもこういう場に何とか足を運んできていただいて、一緒に参画し意見を述べたり見解を出していただいたりし、その温度差を埋める何かをしていかないとなかなか巻き込んでいけない気がします。ここまで中身が充実してきており、今日いただいた資料なんかも素晴らしいと思いますし、こんな事をしている事すら知らない人もたくさん居ると思いますので、何とか今年のテーマとしてそれを組織の温度差を縮めていきたいと思いますので、次回以降、こういう場で形は検討する必要がありますが、是非一緒のテーブルの中でご意見をいただければという気がします。

佐藤会長： 柴田委員の意見に関連しますが、この間、望来自治会の役員会を開いた時に、ご高齢になってきて皆さん達が役員を段々と引き受けられなくなっており、町内会や自治会そのものの運営が難しくなっているため、地域をどうやっていこうかという事が切実な問題として年間の活動の大きな一つとなりました。ですから今、柴田委員が言いましたようにこれは待ったなしなので、そういうところでも当然、検討してくれるような自治会、組織が出て参ります。そういう事をチャンスにしながらこの地域協議会にも組み込み、自治会と地域協議会が一体となり、こういう意見の交換をしながら地域をどうしていくかという事をこの地域協議会で計画していくという事になるのではないかと思います。

課題ではなく、解決する為のいくつかの方法が出てきました。

築田委員： 例えば、それぞれの地域で社協なんか地域福祉協議会なんかを作って敬老会をしていると思いますが、今は、厚田、望来、聚富だけが機能しており、地域性なんかもあったりして3月にやっているところもあれば、10月にやっているところもある。そういう事が機能出来ていない古潭なんかは敬老会ですらやれていない。何も出来ないからという事で多少なりとも自治会の役員の人達が出し合ってお弁当を届けているというような話しも聞いております。こういうのは敬老会でやるから老人会に任せるという話しではなく、地域が何とかしてやらなければならない問題なんです。でも、色々地域によってやり方が違ってもっと応援をすると例えば、出る事の出来なかった古潭の人達もどこかの地域の行事に参加する事が出来るとかという風に人を楽しく集める事が出来る環境を作るのも大事なかなと思うんです。厚田のお祭りですと、「ゆめ倶楽部」の皆さんが出店したりなんかして、結構盛大にやっておりますけれども、望来は老人会も機能しなくなってきており、祭りの行事はやらないという事で寂れる一方なのですが、そんな事が地域であれも駄目になったこれも駄目になったという事で一つ一つ駄目になっていくので、地域の人達の活力が無くなっていくんです。厚田村時代には、厚田一つで敬老会をしていたと思いますが、聚富で開催した3月の敬老会にはこの人達も行きますよとか、ここの敬老会にはこの人達も行きますよというような交流を図りながら活力を付けてやらないといけないのかなという気がします。何も出すものがないので、カラオケばかりではしょうもないだろうという事で遠くからよさこいの方々に来てもらったりしておりますが、聚富では地元のたくさんの人達が来て踊ってもらったりしておりますし、そういう踊りを踊って下さる人達が望来の敬老会に行くと踊ってあげますよとか、厚田の敬老会でも踊りますよ。或いは、厚田でこういう事をやっているとかイベント興業会社みたいなものに繋がるとは思いますけど、それぞれの地域で頑張りなさいというのでは無く、厚田区全体として折角、地域協議会もありま

すのでリーダーシップを取り、応援してあげる事が大事ではないのかなという気がします。

佐藤会長： 締めいただきありがとうございます。

人口が減少していき縮小していても地域は依然としてあるので、それらをもっと元気にする為にはそれを結び付ける。当然、イベント会社は出来ないのでやっぱり地域協議会からそういう事をやっていくような事を計画しながら、また、そういう団体を結びつけるような企画運営というのを立ち上げる必要がやはりあるのかなと思います。4月から来る地域おこし協力隊の二名がそういう事か能力やそういう事に興味を持っているかは別問題として、やはりそういう事は提案していく必要があります。

次回までには準備が出来ないかも知れませんが、今日の意見を踏まえたとえこの地域住民を巻き込んでいくといった時に、地域を全体として捉えるようなイベントのコーディネートをしていくような事を計画し、提案していく事になります。

6. その他

平成 26 年 4 月 24 日（木） 18：30 ～ 聚富会館 和室

7. 閉会

平成 26 年 4 月 24 日事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会 長 佐藤 勝彦